

[商業部会研究集録]

教育課程部会

【研究主題】

科目「課題研究」を通して、探究のプロセス「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」を通じて、生徒一人一人の資質・能力の向上につながる学習活動及びその実施を推進していく指導方法及び指導体制の在り方について

【研究内容】

探究的な学習活動は、日常生活や社会に目を向け、生徒自らがよりよく課題を発見し解決していくため、幅広い可能性を視野に入れ、仮説を立て、焦点化し深く掘り下げていく必要がある。この活動は、身に付けた知識や技術を活用し、事象を多様な角度から俯瞰して捉え、考えることができるものであることが求められる。

このことを踏まえ、生徒の資質・能力の向上につながる学習活動及び指導方法の在り方について調査・研究を行う。

【研究期間】

令和5年度～令和6年度 2年間

目 次

はじめに

1	昨年度の調査・研究の概要及び今年度の調査・研究の内容	1
	(1) 令和5年度の調査・研究の概要	
	(2) 令和6年度の調査・研究の内容	
2	「調査、研究、実験」に関する指導の創意	2
	(1) 年間指導計画の立案	
	(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案	
	(3) 研究のまとめ	
3	「作品制作」に関する指導の創意	6
	(1) 年間指導計画の立案	
	(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案	
	(3) 研究のまとめ	
4	「産業現場等における実習」に関する指導の創意	11
	(1) 産業現場実習の提案	
	(2) 年間指導計画の立案	
	(3) 今後の課題	
	(4) 研究のまとめ	
5	「職業資格の取得」に関する指導の創意	15
	(1) 年間指導計画の立案	
	(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案	
	(3) ワークシートの工夫	
	(4) 高度な資格取得の支援策の提案	
	(5) 研究のまとめ	

おわりに <参考文献>

はじめに

現代社会は急速に変化し、複雑化する課題への対応が求められる中、教育現場でもその変化に即した資質・能力の育成が重要視されている。こうした背景を受けて「総合的な探究の時間」では、生徒が主体的に課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、その成果を表現するという探究のプロセスを重視している。この探究のプロセスを通じて、生徒は日常生活や社会に目を向け、自ら課題を発見し解決する力を養うだけでなく、事象を多角的に認識する力や論理的思考力、表現力といったスキルの育成も目指している。

一方、本道の商業教育に目を向けると、地域と連携した「課題研究」の授業が多く、地域資源を活用した学びや、地元企業との連携による実践的な教育活動が展開されており、生徒の主体性を育む重要な場となっている。しかし、4つある指導項目によっては、探究のプロセスが十分に重視されていないケースもあり、改善が必要であることが令和5年度の調査で明らかとなった。「課題研究」を学ぶ生徒の可能性を最大限に引き出すためには、探究のプロセスを適切に組み込んだ指導法の工夫が求められている。

更に最近では、大学受験においても「総合的な探究の時間」での学習成果を重視する総合型選抜が導入され、探究活動を通じて培われた論理的思考力や表現力を評価する仕組みが広がりを見せている。これにより、「課題研究」や「総合的な探究の時間」での学びが、高校での生活に限定されることなく進学先やその先のキャリアにおいても大きな意義を持つようになっていく。

こうした背景を踏まえ、生徒が主体的に探究活動に取り組める教育環境の整備と指導法の改善は、今後ますます重要な課題になる。特に、探究活動の質を向上させるためには、生徒が自主的に課題を設定し、解決に向けた情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現するプロセスを身につけることが不可欠である。そのため本研究では、生徒の探究スキルの向上を目指すとともに、教員の役割や指導体制の在り方についても焦点を当て、教育現場における探究的な学習活動の質を高めるための具体的な方法について検討を行ってきた。

本調査・研究は2年間にわたって実施し、今年度がその最終年にあたる。今年度は、令和5年度の調査結果を基に、具体的な授業モデルや教員のための支援策を提案することで、指導現場で活用可能な教材を開発し、生徒が主体的に学びに取り組むための仕組みを明確にすることを目指している。この研究成果を教育現場に還元し、多くの生徒や教員がより効果的な学習活動に取り組めることを期待している。

1 昨年度の調査・研究の概要及び今年度の調査・研究の内容

(1) 令和5年度の調査・研究の概要

「課題研究」の指導方法及び指導体制の在り方について、2年間の計画で調査・研究を実施することとなった。1年目においては、現状の課題や実態を把握することを目的とし、道内の関係者を対象にアンケート調査を実施した。収集したアンケート結果をもとに、現状の詳細な分析を行い、実態の可視化と課題の抽出を進めた。その結果を踏まえ、2年目に向けた具体的な改善方策の検討を行い、実行可能な施策の立案に取り組んだ。これにより、次年度における実践的な取り組みの基盤を確立し、調査・研究の成果を最大限に高めることを目指している。

ア 「調査、研究、実験」に関する概要

道内の多くの学校で「調査、研究、実験」の指導項目で「課題研究」が実施されている一方、指導者側の課題や他の学習との接続、地域との連携など、様々な課題が浮かび上がった。これらの結果から、「調査、研究、実験」に関する「課題研究」においては、指導者側の課題や他の学習との接続、地域との連携などを踏まえた探究的な学習の推進に向け、更なる取り組みが必要であることが明らかになった。

イ 「作品制作」に関する概要

道内の多くの学校で「作品制作」の指導項目で「課題研究」が実施されている一方、学習環境やICT機器などの制約、教員のマンパワー不足など、様々な課題が浮かび上がった。これらの結果から、「作品制作」に関する「課題研究」においては、学習環境やICT機器などの使用制限、教員のマンパワー、専門的な助言、学習活動に関わる費用、地域や専門的な人材等へのコーディネートに関する負担感等を踏まえた探究的な学習の推進に向け、更なる取り組みが必要であることが明らかになった。

ウ 「産業現場等における実習」に関する概要

道内では、「産業現場等における実習」の指導項目で「課題研究」が実施されている例が非常に少なく、地域企業と連携したイベントの企画運営、商品開発に関連した販売実習、企業訪問及び外部講師による講演会など、その多くが地域企業と短期間に対話的活動を交えた活動であることが分かった。これらの結果から、「産業現場等における実習」に関する「課題研究」においては、本格的な「産業現場等における実習」が行われていないことを踏まえ、探究的な学習の推進に向け、更なる取り組みが必要であることが明らかになった。

エ 「職業資格の取得」に関する概要

道内の多くの学校で「職業資格の取得」の指導項目で「課題研究」が実施されている一方、「職業資格の取得」に偏った学習が行われ探究のプロセスを踏まえた学習が十分に行われていないという課題が浮かび上がった。これらの結果から、「職業資格の取得」に関する「課題研究」においては、探究のプロセスを踏まえた学習の推進に向け、更なる取り組みが必要であることが明らかになった。

(2) 令和6年度の調査・研究の内容

1年目の調査により明らかになった課題を解決するための具体的な成果物の作成に取り組んだ。特に、指導に工夫が必要な単元や指導の実効性を高めるため、4つの主要な指導項目ごとに年間指導計画、単元別学習指導計画、学習指導案、ワークシートを作成し、各課題に対する具体的な解決策を提案している。作成にあたっては、実践的な活用を重視し、現場のニーズに即した内容を反映させることを意識するとともに、各学校で活用できる資料となるよう工夫を重ねた。

なお、今回の調査・研究により、全ての課題を完全に解決するには至らなかったものの、指導上重要とされる要素を抽出し、実践的かつ有効な提案を行うことができた。これにより、今後の教育活動における指導の質の向上に寄与し、持続的な改善に繋がれば幸いである。

2 「調査、研究、実験」に関する指導の創意

商業科に属する科目で学んだ内容に関連した「調査、研究、実験」を取り入れる。道内の学校で取り組んでいる事例を参考にしつつ、生徒が主体的に課題を発見し、探究的な学習を進めることができるように工夫する。そのための、年間指導計画、単元別学習指導計画、学習指導案を作成し、これに基づく各支援策を提案している。資料において探究のプロセスに関する工夫が分かるように明示した。これらの取り組みを通して、「調査、研究、実験」に関する「課題研究」の質の向上に貢献することを目指した。

(1) 年間指導計画の立案

年間指導計画は、1年間を通じて3学年3単位（105時間）を基準として作成した。学習指導要領解説ではマーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野についての調査、研究、実験例が示されているが、学習した知識・技術が横断的に活用されるように、生徒自らが商業教育の楽しさをどのように伝えることができるかをテーマとし、探究させる内容とした。なお、今回の提案はプログラミングの知識・技術を生かした学習内容とした。

月	単元名	学習内容	探究のプロセス	時数
4 ・ 5	全体ガイダンス 教材の立案に向けた課題の設定	○「調査、研究、実験」の概要 ○プログラミング教育の指導内容の確認 ○プログラミングで解決可能なビジネスの諸課題に関する調査 ○対象者とプログラミング言語の検討	課題の設定 情報の収集	20
6 ・ 7	情報の整理・分析と教材作成	○収集した情報の整理・分析等 ○教材の作成 ・予約管理システム、オンライン注文アプリ ・経営シミュレーション ・アンケート分析、自動集計 など ○プログラミング、入力、テストラン ○教材を使用した模擬授業（高校内）	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	20
8 ・ 9	教材の再考とシミュレーション	○教材の改善点の反映と確認 ○プレゼンテーション（高校内） ○出前授業に向けたシミュレーション 	整理・分析 まとめ・表現	20
10 ・ 12	出前授業と事前・事後の活動	○実施前 ・教材を使った伝え方の再確認と予想質問の想定 ・校内での模擬授業の実施と評価 ○出前授業 ・時間配分とコミュニケーション、机間巡視 ○実施後 ・ブレインストーミングによる整理分析 ・教材の再考	整理・分析 まとめ・表現	32
12 ・ 2	発表会とまとめ	○発表内容や手法のまとめ ○発表会、研究のまとめと今後の展望	まとめ・表現	13

(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案

年間指導計画において計画した単元「教材の再考とシミュレーション」において、特に指導の工夫が求められると考えた。そこで、本単元の学習効果を高めるため、単元別学習指導計画、及び学習指導案を作成した。

(単元別学習指導計画)

単元名 教材の再考とシミュレーション

[工夫のポイント]

この単元では、プログラミングを活用して解決可能なビジネス課題について調査、関連情報を収集・分析した上で教材を作成した。それを用いて、自校の生徒を対象に模擬授業を実施し、実施後のヒアリング等から課題を洗い出し、より完成度の高い教材へと改良を重ねる内容とした。

1 単元の目標

- (1) 分かりやすい教材の構成について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 教材の構成や仕様を組み立てる過程で、習得した知識・技術を生かし、課題を解決する。
- (3) 探究のプロセスに沿い、習得した知識・技術を活用しながら、教材の構成や仕様を考え、教材の完成に向けて主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分かりやすい教材の構成について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	教材の構成や仕様を組み立てる過程で、習得した知識・技術を生かし、課題を解決している。	探究のプロセスに沿い、習得した知識・技術を活用しながら、教材の構成や仕様を考え、その完成に向けて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画 (20時間)

ねらい・学習活動	重点	記録	備考 (評価規準・評価方法)
[第1次 4時間] 分かりやすい教材とは何かについて理解できる。 - 改善点を反映しながら、構成や仕様を整理する。 - 他者の意見、改善点を取り入れる。	態	○	・ワークシート「研究計画表」を基に、教材の構成や仕様を見直し、改善点を反映しながら整理する。 観察 ワークシート 
[第2次 7時間] 教材の構成や仕様の組み立てについて改善点を理解できる。 - 他者の意見、改善点を取り入れる。 - 改善点を取り入れる検討をする。	思	○	・ワークシート「研究計画表」を基に、教材の構成や仕様について改善点が理解できる。 観察、ワークシート

〔 商業部会研究集録 〕

[第3次 6時間] 様々な情報から改善点を取り入れた教材の作成と出前授業のシミュレーションを行う。 - 改善点を取り入れ、最終の教材を作成する。 - 出前授業のシミュレーションを実施する。	知態	○	ワークシート「授業計画案」を基に、改善点を取り入れた教材を様々な角度から考察している。 観察、ワークシート
[第4次 3時間] 教材のプレゼンテーションを行い、出前授業の内容をイメージできる。 - 再編集した教材のプレゼンテーションを行う。 - 出前授業をシミュレーションして感じたものに触れ、評価を行う。	知態	○	ワークシート「授業計画案」を基に、教材のプレゼンテーション、出前授業シミュレーションに取り組み、様々な角度から考察している。 ワークシート、自己評価

(学習指導案)

[工夫のポイント]

授業のシミュレーションを行い、想定される課題を挙げ、課題に対する解決策を考察させる。その際、作成している台本の読み合わせをしながら、対象者がどのような反応をするかを想像し、ブレインストーミングを行われることが重要である。

概要	何ができるようになるか	計画を立案し、他者と協働しながら活動することができる
	何を学ぶか	他者の意見を受け入れる力と整理力
	どのように学ぶか	グループワークによる学び

評価	観点	評価規準	方法等
	主体的に学習に取り組む態度	教材の構成や仕様の組み立てを通して、探究プロセスに合わせて、習得した知識・技術を生かしながら、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	観察 ワークシート

時間(分)	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点・評価
20	振り返り	プレゼンテーションのまとめを確認し振り返る。	【指導上の留意点】 主観的な評価ではなく客観的な意見を取り入れた振り返りを行うように促す。
30	解決策の検討	プレゼンテーションにより洗い出した問題点の解決策を検討する。	【指導上の留意点】 本当にその問題が解決するのか対象者の立場に立って考えさせる。

100	解決策の共有 再検討	グループ間で解決策を共有し、再検討を行う。 	【指導上の留意点】 他のグループの解決策を聞くことにより、自分たちの解決策をブラッシュアップさせる。 【主体的に学習に取り組む態度】の評価 教材の構成や仕様の組み立てを通して、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ワークシート「研究計画表」
30	構成・仕様の組み立て	教材の構成・仕様を組み立てる。	【指導上の留意点】 他者の工夫をただ模倣するのではなく、創意工夫し創造性を持たせるように促す。
20	作業分担	教材作成に向けた作業の分担を行う。	【指導上の留意点】 作業量の偏りが出ないように留意させる。

評価規準「主体的に学習に取り組む態度」

B（概ね満足できる）	A（十分満足できる）	C（努力を要する）
教材の構成や仕様の組み立てを通じて、探究プロセスに沿いながら、習得した知識・技術を活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	教材の構成や仕様の組み立てを通じて、探究プロセスに沿いながら、習得した知識・技術を活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	教材の構成や仕様の組み立てを通じて、探究プロセスに沿いながら、習得した知識・技術を活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとする態度が不十分である。 【手立て】 ワークシートを活用しながら個別対応を行うとともに、グループの生徒から声掛けさせる。

(3) 研究のまとめ

「調査、研究、実験」の取り組みは、生徒が自ら課題を見つけ、主体的に探究を深めていく内容でなければならない。この指導項目の目標は、生徒が探究活動を通じて地域の課題を理解し、協働しながらその解決に向けた有用な成果物等を制作する創造性を身に付けることにある。そのためには、生徒が地域の現状を的確に把握し、どのような課題が存在するのか、どのような成果を生み出すことで課題解決につながるのかを具体的に考え、工夫することが必要である。

今回の指導内容では、商業科の科目間で連動を図りながら、担当生徒以外でも探究活動に取り組める仕組みを構築することを目指した。特に、商業教育の魅力を多くの人に伝えることを重視し、今回はビジネス情報分野を活用したもので提案した。この学習内容を通じて、生徒はプログラミングを活用し、地域に商業教育の楽しさを発信するとともに、自己有用感を高めることも期待される。また、教員の個人の負担感を少なくし、生徒の世代が代わっても、「調査、研究、実験」に取り組める汎用性を兼ね備えている。一方で、他の3分野については今回提案することができなかつたため、継続した研究が必要であると考え。この指導項目に対する提案が「調査、研究、実験」に取り組む生徒やその指導にあたる教員にとって、有益な指針となることを願っている。

3 「作品制作」に関する指導の創意

商業科に属する科目で学んだ内容に関連した「作品制作」を取り入れる。道内の学校で取り組んでいる事例を参考にしつつ、生徒がこれまで商業科に属する科目で培った知識・技術を活用し、探究的な学習を進めることができるように工夫する。そのための、年間指導計画、単元別学習指導計画、学習指導案を作成し、これに基づく各支援策を提案している。資料において探究のプロセスに関する工夫が分かるように明示した。これらの取り組みを通して、「作品制作」に関する「課題研究」の質の向上に貢献することを目指した。

(1) 年間指導計画の立案

年間指導計画は、1年間を通じて3学年3単位（105時間）を基準として作成した。学習指導要領解説ではマーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野についての作品制作例が示されている。今回は主にマネジメント分野や会計分野で学習した知識・技術が横断的に活用されるように、起業とビジネスプランをテーマとし、探究させる内容とした。

月	単元名	学習内容	探究のプロセス	時数
4	起業とビジネスプラン	○起業について ○ビジネスプランの進め方 ○外部講師の活用 ○外部コンテスト等の活用と分析	情報の収集	8
5	ビジネスプランの作成に向けた課題設定	○思考ツールを活用した課題探究 ○ウェブによる社会課題の探究 ○課題設定シートの作成 ○課題設定シートに関する中間プレゼンテーション 	課題の設定	15
6	ビジネスプランの作成に向けた情報収集	○質問票による情報収集 ○自治体や企業訪問による情報収集 ○ウェブによる情報収集	情報の収集	15
7	ビジネスプランの作成に向けた整理分析	○各種フレームワークを活用した整理分析 ○ビジネスプランシートの概要及び目的作成 ○中間プレゼンテーション	整理・分析 まとめ・表現	12
8 ・ 9	ビジネスプランの作成	○ビジネスプランシートの商品・サービス内容及び顧客作成 ○ビジネスプランシートの経営資源、収支計画、調査結果作成 ○ビジネスプランシートに加筆・修正と提出	整理・分析 情報の収集	16
10 (2	ビジネスプランの発表とまとめ	○プレゼンテーション技法の復習 ○ビジネスプランシートの内容をプレゼンテーションソフトウェアにまとめる ・発表練習 ・課題研究発表会への参加と発表 ・外部講師、教員によるビジネスプランの評価 ・探究の成果確認とレポート作成 ・まとめ、振り返り	まとめ・表現	39

(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案

年間指導計画において計画した単元「ビジネスプランの作成に向けた課題設定」において、特に指導の工夫が求められると考えた。そこで、本単元の学習効果を高めるため、単元別学習指導計画及び学習指導案を作成した。

(単元別学習指導計画)																
単元名 ビジネスプランの作成に向けた課題設定																
[工夫のポイント] この単元では、生まれ育った地域が抱えている課題について情報をまとめたり、共有したりする活動の中で課題決定の理由や自分の思いを記載する内容とした。																
1 単元の目標 (1) ビジネスプランの課題設定について、探究的な学習活動の趣旨を理解するとともに、研究計画書の作成手法を身に付ける。 (2) 地域の課題を見いだすとともに、科学的な根拠に基づき課題を解決するためのビジネスプランを考案する。 (3) ビジネスプランの課題設定について自ら学び、地域の課題解決に向けて主体的かつ協働的に取り組む。																
2 単元の評価規準 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">知識・技術</th> <th style="width: 33%;">思考・判断・表現</th> <th style="width: 33%;">主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">ビジネスプランの課題設定について、探究的な学習活動の趣旨を理解しているとともに、研究計画書の作成手法を身に付けている。</td> <td style="padding: 5px;">地域の課題を見いだすとともに、科学的な根拠に基づき課題を解決するためのビジネスプランを考案している。</td> <td style="padding: 5px;">ビジネスプランの課題設定について自ら学び、地域の課題解決に向けて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</td> </tr> </tbody> </table>					知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスプランの課題設定について、探究的な学習活動の趣旨を理解しているとともに、研究計画書の作成手法を身に付けている。	地域の課題を見いだすとともに、科学的な根拠に基づき課題を解決するためのビジネスプランを考案している。	ビジネスプランの課題設定について自ら学び、地域の課題解決に向けて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。						
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度														
ビジネスプランの課題設定について、探究的な学習活動の趣旨を理解しているとともに、研究計画書の作成手法を身に付けている。	地域の課題を見いだすとともに、科学的な根拠に基づき課題を解決するためのビジネスプランを考案している。	ビジネスプランの課題設定について自ら学び、地域の課題解決に向けて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。														
3 指導と評価の計画 (20時間) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">ねらい・学習活動</th> <th style="width: 10%;">重点</th> <th style="width: 10%;">記録</th> <th style="width: 40%;">備考 (評価規準・評価方法)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;"> [第1次 5時間] 地元地域や社会について再学習を行い、生まれ育った場所が抱えている課題を学習する。 ・外部講師による講演 ・校外学習 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">態</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">○</td> <td style="padding: 5px;"> ・地域社会が抱える課題に気づき、よりよく改善するために取り組もうとしている。 ワークシート、観察 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> [第2次 8時間] 地元地域や社会についての情報を取得し、自らが地域の中で生きて行くときに感じるであろう課題について情報をまとめる。 ・課題設定シート ・中間プレゼンテーションの資料  </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">知 思</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">○ ○</td> <td style="padding: 5px;"> ・思考ツールの活用方法について理解している。 思考ツール、観察 ・思考ツールを活用して、地域社会が抱える課題をビジネスプランの課題設定に関連づけている。 課題設定シート </td> </tr> </tbody> </table>					ねらい・学習活動	重点	記録	備考 (評価規準・評価方法)	[第1次 5時間] 地元地域や社会について再学習を行い、生まれ育った場所が抱えている課題を学習する。 ・外部講師による講演 ・校外学習	態	○	・地域社会が抱える課題に気づき、よりよく改善するために取り組もうとしている。 ワークシート、観察	[第2次 8時間] 地元地域や社会についての情報を取得し、自らが地域の中で生きて行くときに感じるであろう課題について情報をまとめる。 ・課題設定シート ・中間プレゼンテーションの資料 	知 思	○ ○	・思考ツールの活用方法について理解している。 思考ツール、観察 ・思考ツールを活用して、地域社会が抱える課題をビジネスプランの課題設定に関連づけている。 課題設定シート
ねらい・学習活動	重点	記録	備考 (評価規準・評価方法)													
[第1次 5時間] 地元地域や社会について再学習を行い、生まれ育った場所が抱えている課題を学習する。 ・外部講師による講演 ・校外学習	態	○	・地域社会が抱える課題に気づき、よりよく改善するために取り組もうとしている。 ワークシート、観察													
[第2次 8時間] 地元地域や社会についての情報を取得し、自らが地域の中で生きて行くときに感じるであろう課題について情報をまとめる。 ・課題設定シート ・中間プレゼンテーションの資料 	知 思	○ ○	・思考ツールの活用方法について理解している。 思考ツール、観察 ・思考ツールを活用して、地域社会が抱える課題をビジネスプランの課題設定に関連づけている。 課題設定シート													

〔 商業部会研究集録 〕

〔第3次 2時間〕 第2次で作成したプレゼンテーションの資料をもとに発表を行なう。他のグループの発表を聞き、更にブラッシュアップする。 ・作成資料による発表	思		・ビジネスプランの課題設定について、論理的に発表している。 観察
---	---	--	--

(学習指導案)

〔工夫のポイント〕

ビジネスにおける様々な問題の中から、確かな見通しを持って活動できる課題を設定する方法として思考ツールを活用した例を示した。ワークシートを使用する方法や、無料のオンラインツールを使用する方法があり、いずれもグループでの協働作業を想定している。「調査、研究、実験」の入り口である課題の設定は、その後の活動の成否に影響するため、時間をかけても丁寧に行うことが望ましい。思考ツールを使うことが目的とならないように、教員は意図的な働きかけをすることが重要である。

概要	何ができるようになるか	目的に応じた思考ツールを選択でき、活用することができる
	何を学ぶか	目的に応じた思考ツールの活用方法
	どのように学ぶか	グループワークによる学び

評価	観点	評価規準	方法等
	知識・技術	地域社会が抱える課題をビジネスプランの作成に関連付けて理解するとともに、思考ツールを活用する技術を身に付けている。	適切な思考ツールの活用
	思考・判断・表現	地域社会が抱える課題を見出し、科学的な根拠に基づいてビジネスプランの課題設定に対応するとともに、課題設定シートを作成している。	課題設定シート

時間 (分)	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点・評価
50	思考ツールの確認	思考ツールの活用方法を理解する。	【指導上の留意点】 グループ学習として行ってもよい。
100	地域課題や社会課題の探究	インターネットを用いて探究する。	【指導上の留意点】 机間巡視をしながら、必要に応じて助言する。

〔 商業部会研究集録 〕

150	思考ツールを活用した課題の探究 	目的に応じた思考ツールを選択し、活用する。	【指導上の留意点】 ワークシートを利用する場合は、全員が参加できるサイズにする。 オンラインツールを利用する場合は、授業外でも活用できるようにする。 【知識・技術】の評価 地域社会が抱える課題をビジネスプランの作成に関連付けて理解している。 思考ツールを適切に活用している。
50	課題設定シートの作成	これまで学習した成果を課題設定シートに記入する。	【思考・判断・表現】の評価 地域社会が抱える課題を見出し、科学的な根拠に基づいてビジネスプランの課題設定をしている。
50	中間プレゼンテーション準備	制限時間内に論理的に説明できるように準備する。	【指導上の留意点】 机間巡視をしながら、必要に応じて助言する。

評価規準〔主体的に学習に取り組む態度〕

B（概ね満足できる）	A（十分満足できる）	C（努力を要する）
地域社会が抱える課題を理解し、思考ツールを選択し活用している。	地域社会が抱える課題を理解し、活用する思考ツールによって結果に違いが出るか検証している。	地域社会が抱える課題の理解が不十分で、思考ツールも活用できない。 【手だて】 思考ツールの具体的な活用例を示し、検討させる。

評価規準〔思考・判断・表現〕

B（概ね満足できる）	A（十分満足できる）	C（努力を要する）
科学的な根拠に基づいて課題を見出し、ビジネスプランの課題設定に概ね対応している。	科学的な根拠に基づいて課題を見出し、ビジネスプランの課題設定に十分対応している。	課題に対する根拠が曖昧で、ビジネスプランの課題設定に対応できていない。 【手だて】 課題設定シートを用い、課題を明確にするよう再考させる。

(3) 研究のまとめ

「作品制作」の取り組みは、これまでに商業科に属する科目などで学んだ知識や技術などを活用し、さらに新しい知識と技術を学びながら作品を完成しなければならない。

この指導項目の目標は、①商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けること、②ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること、③課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことにある。そのためには、生徒が主体的に学習できるよう、教員が生徒に意図的な働きかけをして支援することが重要である。また、教員は授業を計画して実施し、生徒の動きを多面的に捉え、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせるなどの工夫が必要である。

今回提案した指導内容では、探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係が明確になるような構成とした。具体には、考えるための技法を支援するツールとして「課題の設定」では、ブレインストーミングやKJ法、「情報の収集」では、街頭インタビューやアンケート調査、「整理・分析」では、フィッシュボーンやSWOT分析、「まとめ・表現」では、プレゼンテーションやポスターセッションなどの活用を想定している。これにより、生徒は思考を可視化することで、「考えるための技法」を意識的に使えるようになり、組織的・計画的に繰り返し活用し、各時間で身に付けた資質・能力が汎用的な資質・能力として育成されることが期待されている。

更に、外部との連携については、生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動の実現に向けて重要な取り組みであるが、地域によっては、企業等との連携が難しい場合が考えられるため、自治体や企業、大学等が主催するコンテスト等を活用することも効果的である。種類によっては、応募の過程でのアドバイスや、結果に対するフィードバックを得られるものもあり、それらの機会を通じて広範な連携を探ることも一つの方策である。

一方で、マーケティング分野やビジネス情報分野に関連した「作品制作」については、今回提案することができなかったため、これからも継続した研究が必要であると考えている。この指導項目に対する提案が、「作品制作」に取り組む生徒やその指導にあたる教員にとって、有益な指針となることを願っている。

4 「産業現場等における実習」に関する指導の創意

道内では、「産業現場等における実習」を行っている学校が少ないことを踏まえ、探究のプロセスを取り入れた実習の提案を行い、実施までのプロセスや年間指導計画の例を示している。これらの取り組みを通して、「産業現場等における実習」に関する「課題研究」の質の向上に貢献することを目指した。

(1) 産業現場実習の提案

「産業現場等における実習」に関する研究では、生徒が実際のビジネス環境において実践的なスキルを習得し、将来のキャリア形成に役立てることを目的として、「産業現場実習」の導入を提案する。ここでは、年間を通じて前期・後期の2回実施する計画で、前期の実習では、業界特有の業務プロセスや実務スキルの習得に重点を置き、生徒が基礎的な知識と経験を蓄積することを目指す。後期の実習では、前期に得た経験をもとに、より高度な探究的アプローチを取り入れ、実際の課題に対する解決策を主体的に考案・実践する機会を提供する。これにより、生徒の課題解決能力や応用力の向上を図り、将来的なビジネスシーンにおいて即戦力として活躍できる人材の育成を目指している。

ア 実習の頻度と期間

実習は、生徒が将来の職業に対する理解を深め、実践的な能力を身に付ける上で非常に重要な学習の機会である。

(ア) 前期・後期の年2回実施とし、実習期間は1～2週間とする。

(イ) 実習期間中は、企業での実務経験と学校での座学を並行して行う。

イ 事前指導

生徒に対して企業の概要や実習内容、期待される役割について、個別の事前説明を行う。また、コミュニケーションスキルやビジネスマナーの基本を学ぶセッションを設ける。

(ア) 自己の適性理解と企業研究

自己の職業適性や将来設計を踏まえ、興味・関心や強みを洗い出し、目標とする職業の具体的な仕事内容や求められるスキルを調査する。更に、企業のホームページや説明会に参加し、情報収集を行わせる。実習を通して、自己の適性と実際の業務とのギャップを認識させ、主体的に課題解決に向けた計画を立案させる。

(イ) 説明会の実施

卒業生による社会人講話を実施し、生徒の職業意識を高め社会人としての心構えを学ばせる。その後、企業担当者を招いた説明会を実施し、自己分析や進路の具現化を進めるとともに、実習内容・注意点等の周知を行い、実習への準備を図る。

(ウ) 実習先の選定

生徒の学ぶ学科や進路希望、企業の業種・規模、実習内容などを考慮し、幅広い業種を網羅し、多様な職種を配置できるよう実習先を確保する。例えば、マーケティング分野では広告代理店や小売店、マネジメント分野では商工会議所や教育委員会、会計分野では会計事務所や税理士事務所、ビジネス情報分野ではウェブ制作会社やデータ収集分析の企業や行政機関などが考えられる。また、企業のマッチングに際しては、地域コーディネーター（地元商工会議所など）を配置することで企業との連携を向上させる。

(エ) 安全管理体制の確立

実習中の安全確保のため、安全に関する指導や緊急時の対応マニュアルを作成する。更に、実習中の事故に備え、適切な保険に加入する。

ウ 実習における留意点

実習期間中は、担当教員が定期的に実習先を訪問し、生徒の進捗状況を確認する。また、生徒が直面する課題や疑問に対して、企業の担当者と連携し、サポート体制を強化する。

(ア) 探究のプロセスについて

業務日誌などを用いて生徒が自ら課題を設定できる環境を整えるとともに、自己の活動を振り

返ることや他者との関わりによって、自らの取り組みを整理する。更に担当教員や企業の担当者と生徒が報告・連絡・相談ができる環境を作ること、実習結果から課題を分析し、成果や実践の中で不十分だった点を問題点として取り出し、その解決策を検証した上で、2回目の実習に向けた目標設定を立案させる。

(イ) 担当者の負担軽減

生徒と企業のマッチングには、担当者が「生徒の進路希望状況」と「実習先の業務内容」を正確に把握し、進めることが必要である。主な業務は勤務時間内で処理することが可能であるが、生徒の実習先訪問や実習中の見学等は勤務時間の調整・配慮が必要であるため、組織としての支援が求められる。校内委員会を設置することにより、複数の教員が連携することができるため、教員の負担感の軽減と意識醸成などの推進体制の支援が可能となる。

エ 実習後の振り返り

(ア) フォローアップ

実習終了後に、生徒と企業の担当者が参加する振り返りセッションを実施する。実習の成果や課題を共有し、次回の実習に向けた改善点を明確にさせる。

(イ) 実習報告書の提出

実習期間中の学びや気づきを整理させるとともに、年度末に実施する課題研究発表会への資料整理に努めさせる。

オ 評価について

コーディネーターや企業担当者等と連携し、生徒の課題解決に向けた取り組みを評価するルーブリック等を作成する。

(ア) 多角的な評価

実習報告書、企業担当者からの評価、自己評価などを総合的に評価する。

(イ) ポートフォリオの作成

生徒に実習期間中の成果物をまとめたポートフォリオを作成させる。

カ 改善点の提案

振り返りセッションで得られたフィードバックを基に、次回の実習で改善できる取り組みを立案させる。また、教員は生徒の改善策を具現化できるよう、助言に努める。

(2) 年間指導計画の立案

年間指導計画は、1年間を通じて3学年3単位（105時間）を基準として作成した。学習指導要領解説では、マーケティング分野については、企業における売買、商品管理、プロモーション、観光などのサービス、市場調査及び顧客との応対に関する実習、マネジメント分野については、企業活動及び地域の経済や産業の動向の調査に関する実習、会計分野については、企業における会計処理及び財務分析に関する実習、ビジネス情報分野については、企業における情報の収集・処理・分析、情報システムの開発及びウェブページの制作に関する実習が示されているが、生徒の興味・関心や進路希望に応じた体験学習ができるよう、地域や産業界などと連携を図り、長期間の実習の導入や事前・事後の指導の充実などの工夫ができるように取り組める内容とした。

[商業部会研究集録]

月	単元名	学習内容	探究の プロセス	時数
4	オリエンテーション 職業検証及び自己適性理解と学習計画	○「課題研究」とは ○職業人に聞く（講話・事前説明会） ○自己分析（得意・不得意分野） 自己分析・進路の明確化、職業意識・社会人としての基礎力向上を図る。 ○進路希望の明確化と企業のマッチング調査 職業意識の向上、社会性・協調性及び問題解決能力の育成を図る。 ○学習計画と発表	情報の収集	8
5	企業実習に向けた取り組み①	○教員との面談①（前期実習計画について） ○実習先企業の情報収集と準備 ○グループ内での発表（学習計画について） ○学習成果のまとめと振り返り	課題の設定 まとめ・表現	15
6 ・ 7	企業実習① （前期実習）	○自己目標及び課題の設定 ○前期企業実習 ○実習成果のまとめと振り返り 実習の成果や課題を共有し、後期実習に向けた改善点を明確にする。	課題の設定 整理・分析	24
7	企業実習の振り返り①	○生徒と企業担当者による振り返りセッション （課題解決の到達度を考察）	まとめ・表現	3
8	企業実習に向けた取り組み②	○後期実習に向けた学習①（課題の解決策の考察） ○教員との面談②（後期実習計画について） 自己理解の深化や社会人としての基礎力向上を図る。 ○後期実習に向けた学習②（後期実習計画の確認）	情報の収集	8
9 ・ 11	企業実習② （後期実習）	○後期企業実習に向けた自己目標及び課題設定 前期問題点の解決策を具現化し、後期の目標設定を立案する。 ○後期企業実習 ○実習成果のまとめと振り返り （前期検証結果を踏まえた活動内容の分析）	課題の設定 整理・分析	20

11	企業実習の振り返り②	○生徒と企業担当者による振り返りセッション (課題解決の到達度を考察) ○教員との面談③ (自己分析と活動評価) 【実習後フォローアップ】 実習報告書の提出 成果発表会の準備 ○進路活動と企業実習成果のまとめ	まとめ・表現	8
12	課題研究発表会に向けた取り組み	○プレゼンテーション資料の作成 ○プレゼンテーションの練習	整理・分析 まとめ・表現	8
1 ・ 2	課題研究発表会の実施及び振り返り	○課題研究発表会への参加と発表 ○年間報告書の作成 ○座談会 (後輩へのアドバイス)	まとめ・表現	11

(3) 今後の課題

次の課題に取り組むことで、生徒の成長を大きく促進するより質の高いプログラムへと進化すると考える。特に、企業との連携を強化し、双方向的なコミュニケーションを密にすることで、実習内容の充実や評価の質の向上に繋がることが期待できる。

ア 実習先企業の確保

生徒の多様な進路選択に対応するため、多くの実習先を確保することが必要である。しかし、現時点では、受入企業との連携体制が十分に構築されていないため、実習の質や量の確保が課題となることが予想される。この課題を解決するため、学校と企業間で連携協定を締結し、実習に関する責任分担を明確にすることで、より安定した実習体制を構築することが必要である。

イ コーディネーターの確保

生徒の多様な進路希望に対応するためには、生徒と企業との最適なマッチングが不可欠である。しかし、多くの学校では、適切なコーディネート体制が整備されておらず、生徒の希望する企業との出会いの機会が限定されている。この課題を解決するため、地元商工会議所などの専門機関と連携し、生徒のキャリア相談や企業紹介を行うコーディネーターの配置が必要である。また、コーディネーターが配置できない場合にも、教員が対応できるよう、地域の関係機関や行政との連携を強化し、支援を求めることも必要である。

(4) 研究のまとめ

「産業現場等における実習」は、専門的な知識・技術にとどまらず、社会人として必要なビジネスマナーを学ぶ貴重な機会である。この実習を通して、生徒は課題解決に取り組むことで探究心や問題解決能力を養い、主体性、勤労観や職業観を高める上で非常に効果的である。

商業に関する学科を設置する学校は、地域の人材育成という使命を担っており、地元企業での実習は、生徒が自己と向き合い、将来の進路を実現するための学びの場となる。そのため、学校、企業、地域が一体となり、「地域の人材を地域で育てる」仕組み作りを更に推進していくことが必要である。

今回提示した提案が、各学校における「産業現場等における実習」の指導にあたる教員にとって、有益な指針となることを願っている。

5 「職業資格の取得」に関する指導の創意

職業資格を取得する意義や、それが具体的に職業とどのように関係するかを深く理解するため、探究のプロセスを重視した学習を展開できるように工夫する。そのための、年間指導計画、単元別学習指導計画、学習指導案、ワークシートを作成し、これに基づく各支援策を提案している。

資料においては探究のプロセスに関する工夫が分かるように明示した。これらの取り組みを通して、「職業資格の取得」に関する「課題研究」の質の向上に貢献することを目指した。

(1) 年間指導計画の立案

年間指導計画は、1年間を通じて3学年3単位（105時間）を基準として作成した。学習指導要領解説では、旅行業務取扱管理者、中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナー、公認会計士、情報処理技術者の国家試験が取得例として示されているが、生徒の興味・関心に応じた学習ができるよう、一つの職業資格に絞らずに取り組める内容としている。

月	単元名	学習内容	探究のプロセス	時数
4 ・ 5	オリエンテーション 職業資格への理解と学習計画	オリエンテーション ○「課題研究」とは ○職業調べ ○職業人に聞く（講話・座談会、企業訪問） ○職業資格について調べる ○学習計画と発表 	課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	9
5 ・ 6	探究的な学びを通じた職業資格取得の実際①	○教員との面談①（学習計画について） 卒業生・職業人からのアドバイス ○学習教材の情報収集と準備 ○グループ内での発表（学習計画について） ○職業資格の学習①（自発的学習と教え合い） ○学習成果のまとめと振り返り・グループ内発表会	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	22
6 ・ 7	探究的な学びを通じた職業資格取得の実際②	○教員との面談②（学習計画の修正） ○職業資格の学習②（自発的学習と教え合い） ○学習成果のまとめと振り返り ○中間発表会	整理・分析 まとめ・表現	18
8 ・ 10	探究的な学びを通じた職業資格取得の実際③	○教員との面談③（学習計画の修正） ○職業資格の学習③（自発的学習と教え合い） ○学習成果のまとめと振り返り	整理・分析 まとめ・表現	18
11 ・ 12	探究的な学びを通じた職業資格取得の実際④	○教員との面談④（学習計画の修正） ○職業資格の学習④（自発的学習と教え合い） ○学習成果のまとめと将来の展望	整理・分析 まとめ・表現	21
12 ・ 2	課題研究発表会及び振り返り	○プレゼンテーション資料の作成 ○プレゼンテーションの練習 ○課題研究発表会への参加と発表 ○年間報告書の作成 ○座談会（職業人からのアドバイス） （後輩へのアドバイス）	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	17

(2) 単元別学習指導計画・学習指導案の立案

年間指導計画において計画した単元「職業資格への理解と学習計画」において、特に指導の工夫が求められると考えた。そこで、本単元の学習効果を高めるため、単元別学習指導計画及び学習指導案、ワークシートを作成した。

(単元別学習指導計画)

単元名 職業資格への理解と学習計画＜前期＞

[工夫のポイント]

この単元では、年度始めを想定して作成しており、自己のキャリア形成の方向性と関連する職業資格を明確にするため、卒業生や職業人のアドバイスを受け、将来の見通しを持つことや、生徒同士で発表し合い、客観的な視点から計画を修正させるなど、動機づけを重視している。

1 単元の目標

- (1) 職業資格の社会的価値やキャリアに与える影響を知り、職業資格の重要性と、自己のキャリア形成に必要な「職業資格の取得」に関する基本的な知識について理解する。
- (2) 職業資格による社会的価値やキャリアに与える影響を踏まえ、科学的な根拠に基づいて職業資格に関する情報を整理し、自己の目標を達成するために、先を見据えて実現可能な計画を立案し、適切に整理できる。
- (3) 職業と社会との関わりに関心を持ち、「職業資格の取得」について積極的に情報の収集を行い、理解を深め、学習計画を立てる。また、他者の考えや取り組みに興味を示して寛容的に受け入れて、自己の行動や思考を客観的に認識する。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
職業資格の社会的価値やキャリアに与える影響を知り、職業資格の重要性と、自己のキャリア形成に必要な職業資格の取得に関する基本的な知識について理解している。	職業資格による社会的価値やキャリアに与える影響を踏まえ、科学的な根拠に基づいて職業資格に関する情報を整理し、自己の目標を達成するために、先を見据えて実現可能な計画を立案し、適切に整理している。	職業と社会との関わりに関心を持ち、職業資格の取得について積極的に情報の収集を行い、理解を深め、学習計画を立てようとしている。また、他者の考えや取り組みに興味を示して寛容的に受け入れて、自らの行動や思考を客観的に認識しようとしている。

3 指導と評価の計画（20時間）

ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
[第1次 3時間] 職業について情報を収集し、様々な職業と社会との関わりや、その職業に関連する資格を取得する意義について理解する。 ・職業人講話、座談会（卒業生・職業人）、企業訪問などを通して、情報収集を行う。	知	○	・講話の記録（情報共有ツールを活用）を通して、自己のキャリア形成に必要な基本的な知識について理解している。 行動観察

〔 商業部会研究集録 〕

〔第2次 3時間〕 自己の進路希望に応じて、必要となる職業資格の情報を明確にし、収集・整理した情報の中から自己の能力や特性に適した学習方法を選択・決定する。 ・資格取得までの期間や予算、必要な知識や技術、資格の要件、取得方法、難易度、合格率、試験内容、受験料、過去の成功例・失敗例、教材などを収集・整理及び分析する。	思	○	・必要な情報について収集し、整理した情報を基に自らの学習活動を振り返り、次に繋げようとしている。 ワークシート、学習日誌 
〔第3次 3時間〕 職業資格の取得に向けた具体的な学習計画を立案する。 ・学習計画について、社会との関わりや、その職業に関連する資格を取得する意義について理解し、発表を行う。 ・学習計画の発表を通して、資格取得の意義や計画の妥当性について、他者の発表と比較し、分析と考察を行う。	態	○	・他者に分かりやすく的確に説明できている。他者の意見や考えを寛容的に受け入れようとしている。 学習計画表及び実施表 発表内容（スライド） 観察、ワークシート

(学習指導案)

〔工夫のポイント〕

自己の進路希望や将来の展望に応じて、目指す職業資格が異なるため、この時間は職業資格の基本的な情報を個々で収集することを想定している。情報経路が偏らないよう、教員は情報の収集のアドバイザーとしての役割を果たすようにする。また、共有ドライブを活用し、他者のワークシートを参考にできる環境を整える。

概要	何ができるようになるか	職業資格を取得するための必要な情報を収集して、整理することができる
	何を学ぶか	職業資格を取得するために必要な知識や学習方法を知る中で、専門性の高さや社会的価値について
	どのように学ぶか	ウェブを活用した学び

評価	観点	評価規準	方法等
	思考・判断・表現	学びの見通しを持って、必要な情報について収集、整理に取り組み、専門性の高さや社会的価値について理解し、自らの学習活動を振り返り次に繋げようとしている。	行動観察 ワークシート 学習日誌

〔 商業部会研究集録 〕

時間 (分)	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点・評価
50	研究テーマの設定	前時までの職業調べや職業人講話、座談会をもとに自己の研究テーマ（職業資格・テーマ設定の背景など）を考え、ワークシートに入力する。	【指導上の留意点】 自己のキャリア形成に必要な職業資格の取得となるよう助言する。 ワークシート（研究計画書）を開いて準備できているか確認する。
50	資格についての基礎知識に関する情報の収集・整理 	ウェブ等を活用し、資格取得に必要な知識や技術、資格の要件、取得方法、難易度、合格率、試験内容、受験料、成功例・失敗例について調べ、ワークシート（研究計画書）に入力する。	【指導上の留意点】 情報の精度（最新のものか、信憑性、複数の比較など）を十分に行うよう助言する。 巡回をしながら、情報収集へのアドバイスを適宜行う。 共有ドライブを活用し、他者のワークシートも提示して、参考になる部分を互いに共有・活用させる。
50	資格取得に向けた学習方法に関する情報の収集・整理及び決定	ウェブ等を活用し、資格取得のために自己に最適な学習方法、教材、講座を検討・決定し、ワークシート（研究計画書）に入力する。 研究を進めるにあたっての課題・困っていることがあれば同様に入力する。	【思考・判断・表現】の評価 学びの見通しを持ち、必要な情報について深く掘り下げて、ウェブだけではなく、書籍や指導経験のある教員に質問するなど、粘り強く取り組んでいる。

評価規準〔主体的に学習に取り組む態度〕

B（概ね満足できる）	A（十分満足できる）	C（努力を要する）
学びの見通しを持って、必要な情報について収集し、整理した情報を基に自らの学習活動を振り返り、次に繋げようとしている。	学びの見通しを持って、必要な情報について収集、整理し専門性の高さや社会的価値について理解し、自らの学習活動を振り返り、次に繋げようとしている。	学びの見通しを持って、必要な情報について収集、整理ができない。そのため、自らの学習活動を振り返り、次に繋げることができていない。 【手だて】 必要な情報は何か考えさせ、情報を収集するところから始めさせる。

(3) ワークシートの工夫

ワークシート「研究計画書」は年度始めの計画段階で使用することを目的としている。生徒一人一人が設定する研究テーマと目指す職業資格についての情報を整理し、自らに適した方法で学習に取り組めるよう、資格取得のための情報を整理できる内容とした。教員は生徒が将来の見通しを持ち、適切な計画が立案できているかを評価の観点に照らし合わせて適切なアドバイスを行う。

(記入例) ワークシート「研究計画書」 (斜体字は、生徒が記述しているイメージを表現したものです)	
研究テーマ	〇〇の知識を高めて、〇〇試験に一回で合格する。
取得を目指す職業資格	〇〇〇〇〇〇試験
研究背景	今、目指している〇〇の仕事は、仕事をしながら〇〇〇〇〇〇試験の勉強を行い受験していると聞いた。また、入社前に勉強を終えられていると、仕事でもより即戦力になると聞いた。
研究の意義・目的	将来の自分を想像し、実際に働いたときに信頼されて活躍できる人材になれるよう、十分な知識を身に付け、その成果として〇〇〇〇〇〇試験に挑戦して合格を果たす。
研究内容 1 ～資格についての基礎知識～	
資格の正式名称	〇〇〇〇〇〇試験
種類(国家・民間、主催者)	国家資格 所管：〇〇省 主催：〇〇法人〇〇〇機構
基本情報 ※事実を記載	試験科目・試験内容・試験時間など 科目 A (〇〇問の四択問題) 90分 科目 B (長文に対する複数選択肢問題) 100分 受験資格の要件 特になし
	申込方法・期間、受験料など 申込は、〇〇受験サイトにて随時受付 受験料は〇〇〇円(税込み)で、別途払込手数料が必要
	受験日 随時実施 受験場所・方法 場所：〇〇センター、〇〇株式会社 方法：CBT方式 その他 合格基準：各科目〇〇点以上

有用情報 ※工夫して情報を 収集する 	難易度 合格率は約〇〇％
	他者の成功談より気になった点等 いきなり問題演習は行わずに、テキストを読み込むところから始めた。ある程度基礎知識が身に付いたら、完全に理解していなくても、問題演習や過去問題に取り組む。過去の1回分を正答率が100%になるまで何度も繰り返し解いて、正解の理由、正解以外の選択肢の理解、それぞれの理由のアウトプットを順に行って理解を深めた。これを数回分行えば、完璧。
	他者の失敗談より気になった点等 知識が不十分のままいきなり問題演習を行ったり、間違えた問題や用語をそのままにしていると、その場しのぎになって力がつかなかった。（もし、基礎知識がある場合には、過去問題で演習を早めに始めてもよいかもしれない。）また、思った以上に全範囲の学習に時間がかかってしまい、試験本番は自信の持てないまま受験してしまった。計画的に進めて、何度も反復するべきだった。
	他者の体験談より気になった点等 受験日や目標点数などを決めて、それに向けて1週間の勉強スケジュールを立てて、コツコツと進めたおかげで、安心して受験できたし、一発合格につながったと思う。 最初から問題演習を行うのではなく、まずはテキストを読み込み、基礎知識を付けた方がよい。分からない用語はそのままにせず、丁寧に調べて根気強く学習した方が、その後の学習がスムーズになる。初めは、用語も多くて逃げたくなったりもしたが、テキストを1冊に絞ったことと、分からないところはYouTube動画を見ると理解しやすかったし、飽きずに楽しみながら頑張ることができた。この知識を生かして、また上の試験にも挑戦したい。
	その他

研究内容2 ～資格取得に向けた学習方法～

学習方法 (選択し○を付ける)	☒ 市販のテキストや問題集で独自学習 ☐ 講座を受講 ☒ 動画やサイトを活用 ☐ その他（ ）
具体的な学習方法	1 テキストを使って、用語や基礎知識を学習する。 2 問題集を使って、单元ごとに問題演習を行う。 3 定期的に反復演習を行い、間違った問題や苦手分野をつぶしていく。 4 過去問題を使って、力試しを行う。

必要となる教材・環境・費用など	・「〇〇〇〇試験テキスト」（〇〇出版） 〇〇〇円 ・「〇〇〇〇試験問題集」（〇〇出版） 〇〇〇円 ・「〇〇〇〇試験過去問題集」（〇〇社） 〇〇〇円 ・YouTubeチャンネル【〇〇〇〇〇〇】 ※YouTubeが規制なく視聴できるネットワーク環境が必要
研究を進めるにあたっての課題・困っていること	
この研究計画書は「学習計画及び実施表」の計画を記入後に併せて担当教員に提出すること。	
【確認】	
コメント	検印
教員は将来の見通しを持ち、適切な計画が立案できているかを評価の観点に照らし合わせて生徒にアドバイスを行う。	

（4）高度な資格取得の支援策の提案

学習指導要領の「課題研究」における「職業資格の取得」には、生徒が自らの進路希望に合わせて適切な職業資格に関する課題を設定し、将来を見据えた専門的な学習を続けることが重要とされている。しかし、令和5年度に実施したアンケートでは、高度な資格取得の指導について、教員の「困り感」が散見された。教員及び生徒に対する支援策が必要であり、ここでは、現在取り組むことのできる連携プログラム等の提案を行う。

ア 会計分野

商業の学習分野と関連する主な職業資格の例として、会計分野における公認会計士や税理士に関する資格の取り組みについて提案を行う。

北海道高等学校長協会商業部会では、令和2年に日本商業教育振興会と高崎商科大学と簿記会計教育の充実に係る高大連携協定を締結し、教員向け事業「スーパー・アカウンティング・ティーチャー（SAT）養成事業」を進めてきており、令和3年には高大連携協定の一環として、北海道高等学校長協会商業部会に加盟する高等学校に在籍する生徒が「Haul-A（ホール・エー）プロジェクト」に応募できることとなった。この連携事業については、令和6年4月から令和9年3月まで継続するとともに、令和6年10月には朝日大学も加わり生徒支援の強化を図った。

「Haul-Aプロジェクト」は、簿記会計に特化した高大連携事業で、7年間の商業教育を通じて、職業会計人（公認会計士、税理士、企業会計人、商業科教員）を育成することを目標としている。具体的な内容は、「日商簿記1級プロジェクト」、「税理士試験（簿記論・財務諸表論）プロジェクト」、「公認会計士試験（短答式試験）プロジェクト」の3つがあり、一定の基準を満たした生徒は、オンデマンドやオンラインで学習が可能である。

また、高崎商科大学経理研究所においては、「スーパー・アカウンティング・ハイスクール（SAH）」事業を実施しており、商業高校や県商業教育団体等を指定して簿記会計に関連する教育機会を提供している。具体は、高校在学中に「日商簿記1級」、税理士試験「簿記論」・「財務諸表論」の合格を目指す生徒の育成である。

高校生が高度な職業資格を取得するためには、情報の収集や教材準備が大きな負担となるため、これらのプロジェクトを活用して学習支援を行う方法がある。

イ ビジネス情報分野

商業の学習分野と関連する主な職業資格の例として、ビジネス情報分野における基本情報技術者試験に関する資格の取り組みについて提案を行う。

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）は、基本情報技術者試験免除対象講座認定制度を設けている。この制度は、認定講座を100時間以上受講し、修了試験に合格することで、基本情報技術者試験の科目A試験が1年間免除される制度である。修了試験は2回まで受験可能で、この制度に合格すると、基本情報技術者試験の科目B試験の学習に集中することができるため、有効な手立てとなる。

ただし、免除を受けるためには、学校単位等での手続きや費用が発生するため、学校としての支援も必要となる。

ウ その他の分野について

マーケティング分野で例示されている旅行業務取扱管理者、マネジメント分野に関する中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナーの指導について、生徒や教員の支援策については、各資格に関連する指導を行っている大学や専門学校、企業との連携により、支援を受ける方法が考えられる。

(5) 研究のまとめ

「職業資格の取得」の取り組みは、生徒自らの進路希望や興味・関心に応じて、専門的な学習を深め、専門性の高い職業人になることを目指すものでなければならない。そのためには、生徒が、職業資格の意義や制度化の目的を深く理解し、自発的な学習意欲を刺激する工夫が必要である。

今回提案した指導内容では、探究のプロセスを取り入れた授業を行い、高度な資格の取得が達成できるような構成とした。具体としては、過去の成功事例や失敗例など、多角的な情報収集を通じて、自己の強みと弱みを客観的に分析し、深い情報収集ができること重視しており、生徒は収集した情報を整理することで、自己の能力や特性に応じた課題を設定し、計画を立てることで継続的な学習ができるようになっていく。

また、教員は生徒の学習意欲を高めるため、適切なフィードバックやサポートを提供し、学習の進捗を見守ることが重要となる。教員は「職業資格の取得」が生徒の将来にどのように役立つかを具体的に示すことで、生徒の学習意欲を高める必要がある。この部分に関しては、今回提案することができなかったことから、継続した研究が必要であると考えられる。

このことにより、生徒は「職業資格の取得」に対する意義をより深く理解し、学習に対する内発的動機を高めることができると考える。

この指導項目に対する提案が、「職業資格の取得」を目指す生徒やその指導に当たる教員にとって、有益な指針となることを願っている。

おわりに

今年度、当部会では、「課題研究」について、生徒一人一人の資質・能力の向上に繋がる学習活動を目指し、指導項目である(1)調査、研究、実験、(2)作品制作、(3)産業現場等における実習、(4)職業資格の取得の年間指導計画、単元別学習指導計画、学習指導案、教材等を作成し、探究のプロセスを踏まえた支援策について調査・研究を進めた。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）では、生徒が各教科・科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、過程を重視した学習の充実が求められており、特に次のような学習活動が示されている。

- ・各教科・科目等において身に付けた知識を相互に関連付けてより深く理解する学習
- ・情報を精査して考えを形成する学習
- ・問題を見い出して解決策を考える学習
- ・思いや考えを基に創造する学習

これらを通じて、生徒が習得した知識・技術を活用して課題を解決する能力等を確実に身に付ける学習が必要不可欠である。

探究的な学習活動は今後、校種や教科を問わず、生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うといった「指導の個別化」や、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教員が生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、生徒自身の学習が最適となるよう調整する

「学習の個性化」が求められることになるだろう。こうした背景を踏まえ、教科「商業」の「課題研究」においては、率先して探究的な学習活動に取り組むことが求められる。当部会で作成した各種資料を活用し、それぞれの地域や学校の実態に応じた創意工夫あふれる授業が展開されることをお願いしたい。

最後に当部会の調査・研究にご助言や資料を提供していただいた関係各位並びにアンケート調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

<参考文献>

- | | |
|--|--|
| ・高等学校学習指導要領（平成30年告示） | 文部科学省 |
| ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編 | 文部科学省 |
| ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編 | 文部科学省 |
| ・今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（令和5年3月） | 文部科学省 |
| ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校（令和3年8月） | 専門教科商業
文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター |
| ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校（令和3年8月） | 総合的な探究の時間
文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター |
| ・高等学校教育課程編成・実施の手引（令和6年10月） | 北海道教育庁学校教育局高校教育課 |
| ・高等学校教育課程編成・実施の手引（令和5年10月） | 北海道教育庁学校教育局高校教育課 |
| ・高等学校教育課程編成・実施の手引（令和4年10月） | 北海道教育庁学校教育局高校教育課 |
| ・新時代に対応した資質・能力を育成する本道産業教育の在り方について（答申）（令和4年12月） | 北海道産業教育審議会 |
| ・商業科教育法 ―論理と実践―（令和3年4月） | 東京法令出版株式会社 |

[商業部会研究集録]

令和6年度 調査研究協議会 名簿

	所属	役職	氏名
部 会 長	北海道札幌東商業高等学校	校 長	澤 田 信 夫
担当副部会長	北海道苫小牧総合経済高等学校	校 長	池 田 隆
委 員 長	北海道函館商業高等学校	校 長	佐 藤 恵 一
主 査	北海道北見商業高等学校	校 長	島 瀬 展 成

教育課程部会 担当者

	所属	役職	氏名
常 任 委 員	北海道奈井江商業高等学校	校 長	山 田 仁 樹
	北海道下川商業高等学校	校 長	濱 下 昌 也
	北海道苫前商業高等学校	校 長	板 野 成 人
	北海道福島商業高等学校	校 長	阿 部 敏 幸
専 門 委 員	市立札幌啓北商業高等学校	教 諭	石 山 和 弥
	北海道北見商業高等学校	教 諭	梅 澤 真 生
	北海道旭川商業高等学校	教 諭	小 原 洋 恒
	北海道帯広南商業高等学校	教 諭	藤 原 梢
	北海道函館商業高等学校	教 諭	志 平 剛 史
	北海道札幌東商業高等学校	教 諭	早 川 進
	北海道滝川西高等学校	教 諭	藤 岡 康 弘
	北海道札幌国際情報高等学校	教 諭	松 村 順
	北海道釧路商業高等学校	教 諭	長谷川 修 哉

調査研究協議会 開催日

- ・ 第1回 令和6年6月10日(月) 北海道札幌東商業高等学校
- ・ 第2回 令和6年9月2日(月) 北海道札幌東商業高等学校
- ・ 第3回 令和6年11月25日(月) 北海道札幌東商業高等学校
- ・ 第4回 令和7年1月10日(金) 北海道札幌東商業高等学校